

**令和6年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット
第1回地域課題ワークショップ**

日 時	令和6年7月20日(土) 10:00~16:30 (9:50受付)
場 所	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会集会所、須磨海岸
参加者	神戸市立六甲アイランド高校(3)、兵庫県立御影高校(3)、兵庫県立星陵高校(3)、兵庫県立農業高校(3)、兵庫県立加古川東高校(3)、山陽学園高校(2)、広島県立広島国泰寺高校(3)、兵庫県立尼崎小田高校(14) 生徒34名、教員17名、来賓8名、大学院生5名 合計64名
内 容	<p>高校生サミットの取組のスタートとして、まず、テーマの共有を目的にワークショップを行った。海からの視点だけの環境でなく、海と山のつながり、環境のつながりの視点で考えていく基礎作りを行った。午前中は海と山のつながりの背景的知識を学ぶため「森と海のつながり」、「神戸の山の活動を通して」、「漁師から神戸の海の問題について」の3つの講義を受けた。</p> <p>午後の須磨海岸での実習では、3班に分かれてそれぞれ3種類の実習(プランクトン採集、砕波帯ネットによる生物採集、セディメントトラップ)を行った。</p> <p>その後、集会所に戻り、各地点での採取の結果を観察・共有し、須磨里海の会会長の吉田様よりまとめの話をいただいた。本日の実習について、グループディスカッションをして振り返りを行った。</p>
生徒の感想	<p>◇海と山の繋がりを理解した。先生たちが日々物事を繋げて考えなさいというように、問題を別の問題とつなげることで継続して問題解決に取り組んでいけると思った。</p> <p>◇きれいな海と豊かな海のどちらが美しいのか、どちらが正しいのかは視点によって変わる。ヒトの視点だけでなく、生態系という多様な立場に立って良いのかを判断し、行動していくことが大切だと考えた。</p>

写 真	
	
プランクトン採集	砕波帯ネットによる生物採集
	
セディメントトラップ	ディスカッション・発表

**令和6年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット
第2回地域課題ワークショップ**

日 時	令和6年9月16日（月・祝） 10:00～16:30（9:50受付）
場 所	神戸市漁業協同組合須磨浦漁友会集会所、須磨海岸
参加者	神戸市立六甲アイランド高校（3）、兵庫県立星陵高校（2）、兵庫県立農業高校（3）、 兵庫県立加古川東高校（3）、兵庫県立姫路西高校（2）、山陽学園高校（2）、 広島県立広島国泰寺高校（3）、兵庫県立尼崎小田高校（15） 生徒33名、教員16名、来賓4名、大学院生4名 合計57名
内 容	<p>須磨海岸での実習では、集会所で須磨里海の会の吉田様から実習についての説明を受け、3班に分かれてそれぞれ3種類の実習（小形地曳網の曳網・小形地曳網の採取物の選別・漂着物調査）を3地点で行った。</p> <p>その後集会所に戻り、須磨里海の会や須磨浦漁友会の方々の指導や助言を仰ぎながら地曳網による採集物と漂着物の選別作業を実施した。各班の集計を一覧表にまとめると、採集した場所ごとの特徴、その要因についての説明を受けた。また魚の解剖実習を行い、胃や消化器官の内容物調査を行い、海洋の環境を考えることができた。</p> <p>最後には、須磨海岸の変化について、講義を受けた。近年水温の上昇などの影響から、海底に生息するアオモの減少が見られ、これが海の生態系に悪影響を与えていることを学んだ。</p>
生徒の感想	<p>◇海岸に落ちている漂流物から海の状況を判断できることがわかり、有意義だった。</p> <p>◇魚の胃袋を調べるだけでその魚がどんな生活をしたかや、今の環境問題などが見えてきてとても面白かった。◇須磨の先生や漁師さんが話していた通り、人間が壊した環境をなおすには大きな労力と時間がかかること、環境と共存する難しさが分かった。</p>

写 真



小形地曳網の曳網



砂浜漂着物調査



消化器官内容物調査



ディスカッション・発表

**令和6年度瀬戸内海の地域課題解決に取り組む高校生サミット
第3回地域課題ワークショップ**

日 時	令和6年10月27日(日) 10:10~16:40 (10:00受付)
場 所	兵庫県立人と自然の博物館、三田市南公園(ブイブイの森)
参加者	神戸市立六甲アイランド高校(2)、兵庫県立御影高校(3)、兵庫県立星陵高校(2)、 兵庫県立農業高校(3)、兵庫県立加古川東高校(4)、兵庫県立姫路西高校(2)、 広島県立広島国泰寺高校(3)、兵庫県立尼崎小田高校(11) 生徒30名、教員14名、来賓4名、大学院生4名 合計52名
内 容	<p>午前はブイブイの森での里山実習を行った。実際に里山に入り、竹林や常緑樹林が増加する現状を学び、里山に人がどう関わるべきか考えるよい機会となった。</p> <p>午後は人と自然の博物館で森林土壌学の講義を受け、土壌の形成などについて学んだ。また、館内の見学もあり、午前中の実習で学んだことをより深めることができた。</p> <p>最後にグループディスカッションで本日の学びについて議論し、発表を行った。海からの視点だけでなく、山から環境を考える視点を学ぶことができた。</p>
生徒の感想	◇里山の重要性や管理技術の継承の必要性を理解出来た。◇里山は海と繋がっており、竹が里山作りを阻害しているので伐採していく必要がある。◇実際に山を歩いて体験したことで今の里山の様子やその問題点などがよくわかりました。里山と里海の繋がりを考えるのは難しかったけど良い学びになりました。◇このワークショップを通して山の豊かさが海の豊かさにつながることを知ることができました。

写 真	
	
里山実習 1	里山実習 2
	
講義：森林土壌学	ディスカッション・発表

**令和6年度 地域課題解決に取り組む高校生サミット～兵庫から日本を考える～
(第14回瀬戸内海の環境を考える高校生フォーラム)**

日 時	令和6年11月17日(日) 10:00～16:30(9:30受付)
場 所	兵庫県立尼崎小田高等学校
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 来校参加生徒 神戸市立六甲アイランド高校(3)、兵庫県立御影高校(8)、兵庫県立星陵高校(3)、兵庫県立農業高校(4)、兵庫県立加古川東高校(14)、兵庫県立姫路西高校(3)、山陽学園高校(2)、広島県立広島国泰寺高校(4)、兵庫県立尼崎西高校(1)、兵庫県立淡路三原高校(3)、神戸市立科学技術高校(6)、広島県立広島高校(2)、和歌山県立海南高校(2)、福井県立若狭高校(9)、大分県立海洋科学高校(3)、兵庫県立尼崎小田高校(29) 生徒名96名、教員41名、来賓27名、大学院生等5名 合計169名 オンライン参加者 3名 合計172名
内 容	<p>午前は、各校の課題研究のポスター発表を行った。様々な高校間や、大学、企業、行政の方との交流を行い、課題研究の議論を深めた。</p> <p>午後は「海と山のつながり」をテーマに3つの論題についてのボードディスカッションを行い、地域課題解決のために何ができるか高校生からの「提言」を考え、全体報告会で共有、発信した。</p>
生徒の感想	<p>◇このような多種多様な人がいる場で様々なコメントをもらえたことは、とても貴重な経験になった。◇班のみんなで意見を出し合った結果とても良い発表へとつなげることができたので良かった。◇報告会では私とは全然違う視点からのアプローチがたくさんあって、おもしろかったし、学習が深められた貴重な時間だった。</p>

写 真	
	
ポスターセッション	ボードディスカッション
	
報告会	集合写真

高大連携フォーラム in 京都大学

日 時	令和6年12月22日(日) 10:30~14:50 (10:00受付)
場 所	京都大学吉田キャンパス 人間・環境学研究科大講義室
参加者	神戸市立六甲アイランド高校(3)、兵庫県立御影高校(8)、兵庫県立星陵高校(2)、 兵庫県立農業高校(4)、兵庫県立姫路西高校(4)、広島県立広島国泰寺高校(4)、 山陽学園高校(4)、兵庫県立尼崎小田高校(33) 生徒62名、教員18名、京都大学教授・大学生・大学院生等47名 合計127名
内 容	午前に高校生サミットの取組紹介、ポスターセッションを行い、それについて京都大学の大学院生・大学生と意見交換会を行った。京都大学の学生へ向けて発表を行い、アドバイスをいただく貴重な機会となり、課題研究の議論をさらに深めることができた。 午後はこの一年間の高校生サミットの一連の取り組みを振り返り、どの様なことが学べたか、さらに学びたいことをまとめた。
生徒の感想	◇大学生からの助言は納得できるものがたくさんあって、探究活動での収穫になった。水準の高い活動を行っていた周りの学校だけでなく、自分たちの活動も褒めてもらったのは励みになった。◇今回の交流で、環境問題の解決は「それだけの人が行うか」「知ってもらえるか」の2つが根底にあると思いました。特に「きれい≠豊かさ」など事前の知識が必要なものは知っている私たちが発信していく必要があるのだと思いました。

写 真



高校生サミットの取組紹介



ポスターセッション



意見交換会



一年間の振り返り・報告会